

Tender Is the Night 試論

男として、医師として、そして父としての Dick Diver

稗方康夫

Lois Moran と“Jacob's Ladder”

Tender Is the Night に着手しようとしていた 1926 年ごろ、F. Scott Fitzgerald はハリウッドでその後の作品に大きな影響を与える一人の女性と出会う。それは映画女優の Lois Moran である。Moran は Fitzgerald よりも 10 歳ほど年下だったが、Fitzgerald は若く、美しく、才能ある彼女に魅力を感じる。妻 Zelda はそれに嫉妬し、バスルームで自分の衣類を燃やして抗議したという。¹

Lois Moran と出会ったこの時期から、Fitzgerald は自分自身と同じように 30 代に差しかかった男性を主人公とし、ヒロイン Moran と同じように 10 代の女性とした、年の離れた男女の恋愛を主題とした作品を書くようになる。それらの作品では、主人公はヒロインの若さに魅力を感じるが、彼女は少女から女性へと成長し、結局は主人公の元を去っていく。このような恋愛は *The Great Gatsby* の Jay Gatsby と Daisy、あるいは“Winter Dreams”の Dexter Green と Judy Jones の恋愛、つまり Fitzgerald 自身と Zelda あるいは Ginevra King をモデルとしたものとは異なっており、Fitzgerald の作品におけるモチーフの転換を見ることができる。

そのような短編の代表的な例として、Fitzgerald は 1927 年に“Jacob's Ladder”を執筆している。この作品は *Saturday Evening Post* に掲載されたが、Lois Moran がヒロイン Jenny Delehanty のモデルになっていることで知られている。また、Jenny Prince という彼女のステージ・ネームは *Tender Is the Night* の Rosemary Hoyt の early name としても使われており、彼女の原型になったともいえる。² “Jacob's Ladder”における恋愛を考察することは、*Tender Is the Night* における Dick Diver と Rosemary の関係を理解するひとつの手がかりとなるだろう。

Jacob Booth がはじめて Jenny Delehanty に会ったときに年齢を尋ねると、彼女は 16 歳と答える。Jacob はこのとき 33 歳、Jenny の二倍ほどの年齢になり、Fitzgerald と Lois Moran のように年の離れた組み合わせになる。

Jenny を見たとき Jacob は、“he had never seen a texture pale and immaculate as her skin, lustrous and garish as her eyes.”(*The Short Stories of F. Scott Fitzgerald*, 352 ページ、以下ページ数のみ記す)と感じる。自分はもう若くはないと実感している Jacob にとって、Jenny の“immaculate”なところが魅力に感じられたのだ。

その後 Jacob は Jenny を映画監督の Billy Farrelly に紹介する。Jacob の人脈によって Jenny は女優として出発することができるようになるのである。このように、男性のほうが社会的地位や経済力において優位であり、女性に何らかの形で援助をする点も *The Great Gatsby* や“Winter Dreams”など 1925 年までの作品とは異なり、*Tender Is the Night* における Dick と Nicole あるいは Rosemary の関係へと通じる。

そして Jacob はかつて歌手を志しながら 10 年前の高熱により声を失い、その夢を断念した過去を持っている。未来に可能性のある Jenny との関係を通じて過去を繰り返すよう

な感覚を味わいたかったのかもしれない。

その後 Jenny は Jenny Prince というステージ・ネームを与えられ、映画女優として活躍することとなる。Jenny に感謝されたとき、Jacob は “She was so young—Jacob had never been so conscious of youth before. He had always considered himself on the young side until tonight.” (356) と、彼女の “youth” を意識し、みずからがもはや若くはないことを痛感する。

ほどなくして二人は恋に落ちる。 “Hesitating tentatively, he kissed her and again he was chilled by the innocence of her kiss[...]. She did not know yet that splendor was something in the heart[...].” (357) と、Jacob は彼女の “innocence” に身震いする。

Jenny の “innocence” は Jacob にとって魅力のあるものだったが、二人の間にある変化がおとずれる。それは Jenny の成長である。彼女は 17 歳になる。 “[A]t seventeen, months are years and Jacob perceived a change in her; in no sense was she a child any longer.” (360) とあるように、Jenny は一人前の女性になってしまったのである。そして Jacob は彼女と Raffino という若い俳優との仲を疑い、嫉妬する。これは誤解だったのだが、このとき Jacob は Jenny の存在の大きさに気づく。一方で、女優としての成長を続ける Jenny にとって Jacob は出会ったときのような大きな存在ではなくなっていた。

結局、Jenny は Jacob の元を去っていく。彼女はもはや 16 歳の “immaculate” で “innocent” な Jenny Delehanty ではなく、女優 Jenny Prince なのであった。Jacob にできることは “Never any more. Never any more.” (371) と嘆くことだけだった。

“Jacob’s Ladder” にみられる「少女が成長し、中年男から去って行く」恋愛はまさに *Tender Is the Night* において描かれている恋愛である。“Jacob’s Ladder” は “Winter Dreams” のような第一級の短編ではないが、*The Great Gatsby* から *Tender Is the Night* へと恋愛の構図が移行していく転換期の作品として一読に値する作品である。

Dick Diver と Rosemary Hoyt 1926

Fitzgerald 自身が Sheilah Graham に「この作品は 2 冊の本にするべきだった」と述べているように³、*Tender Is the Night* は二つの物語を含んでいる。一つは Dick Diver と Rosemary Hoyt の物語、もう一つは Dick と妻 Nicole との物語である。まずはこの二つの比較を試みたい。

はじめに Dick と Rosemary の関係についてだが、作品の冒頭では視点人物でもある Rosemary は 17 歳であり、ほどなく 18 歳の誕生日を迎える。一方 Dick Diver の年齢はこの時点では明言されていないが、他の場面から算出すると 35 歳になる。⁴ 二人は Jacob と Jenny と同じように年齢が離れているが、父親のいない Rosemary は Dick に対して、“He seemed kind and charming—his voice promised that he would take care of her, and that a little later he would open up whole new worlds for her, unroll an endless

succession of magnificent possibilities.” (16)という印象を抱いており、彼を恋愛対象としてだけでなく未成熟な自分を導いてくれる父親のような存在としても捉えている様子がうかがえる。

一方で Dick は、Jacob と同様、Rosemary の若く無垢なところに魅力を感じている。彼は映画 *Daddy's Girl* を見て、1 年前の彼女の姿に感銘を覚える。

There she was—the school girl of a year ago, hair down her back and rippling out stiffly like the solid hair of a tanagra figure; there she was—so young and innocent—the product of her mother's loving care; there she was—embodying all the immaturity of the race, cutting a new cardboard paper doll to pass before its empty harlot's mind. She remembered how she had felt in that dress, especially fresh and new under the fresh young silk. (68-69)

映画の中の Rosemary は Jenny と同じく“so young and innocent”であり、“immaturity”を体現している。みずからが中年に差しかかっている Dick は、自分が失った若さにあふれている Rosemary に魅力を感じたのだろう。

Dick ははじめは自分に好意を抱く Rosemary を子ども扱いしていたが、やがて彼女を意識するようになり“*I'm afraid I'm in love with you [...] and that's not the best thing that could happen.*” (74) といって恋に落ちる。⁵そして二人きりになった束の間抱き合っていると Rosemary のほうが先にわれに帰り、“*I must go, youngster,*”(109)と言われるほどに夢中になってしまう。

そして3年後の1928年、Dick と Rosemary は再会するのだが、二人の関係には変化が起こっている。

The past drifted back and he wanted to hold her eloquent giving-of-herself in its precious shell, till he enclosed it, till it no longer existed outside him. He tried to collect all that might attract her—it was less than it had been four years ago. Eighteen might look at thirty-four through a rising mist of adolescence; but twenty-two would see thirty-eight with discerning clarity. Moreover, Dick had been at an emotional peak at the time of the previous encounter; since then there had been a lesion of enthusiasm. (207-208)

Rosemary はもはや *Daddy's Girl* のときのように“so young and innocent”ではなくなっていた。一人前の女性へと成長し、“discerning clarity”を備えた Rosemary にはもはや父親代わりの Dick は必要ではなくなっていたのである。彼女は“*I was just a little girl when I met you, Dick. Now I'm a woman.*” (209)と告げ、Dick が彼女を求めれば、“*No, not now—those things are rhythmic.*”(210)と拒む。⁶22歳の Rosemary には大人の分別が備わっており、“*Oh, please, I don't care even if I had a baby. I could go into Mexico like a girl at the studio.*”(65)と Dick を振り向かせようと感情的になっていた18歳のときは

別人のようである。その翌日に結局二人は関係を結ぶこととなるものの、その後も Rosemary の気持ちりが 3 年前のような高まりを取り戻すことはなかった。

一方で、Dick にも変化が起こっている。彼には衰えが見え始める。自分に夢中ではなくなってしまった Rosemary に、以前と変わらぬたくましさを見せつけようと水上ボートで二人組のアクロバットを試みるも、Dick は自分の体を支えきれず海に転落してしまう。Rosemary は “Wonderful! They almost had it.”(284) というものの、“It was full of annoyance as she [Nicole] expected, because he had done the thing with ease only two years ago.”(同)と以前にはたやすくできたアクロバットができなくなっていることに Dick はショックを受ける。そして Nicole が止めるのもきかずに再度挑戦するものも失敗してさらに醜態をさらしてしまう。

3 年という歳月は少女 Rosemary を大人に変貌させ、中年男 Dick からは体力を奪っていたのだった。Dick は “Did you hear I'd gone into a process of deterioration?”(285) と言って Rosemary を困惑させる。彼女はある女性が “He's not received anywhere any more,”(287) といっていたのを思い出し、最終的には彼の元を去っていくのである。父あるいは保護者的存在としての Dick は役割を終えたのだ。

Dick Diver と Nicole Warren 1917

次に Dick と Nicole の関係について考察したい。二人の出会いは 1917 年にさかのぼる。Nicole Warren は父親と肉関係を持ったことが原因で精神分裂症を発症し、Dick が勤務する精神病院に患者としてやってくる。

Dick は Nicole の治療のために彼女と文通をしていた。その文通を通じて Nicole は Dick に医師としてだけでなく、男性としても好意を持つようになっていた。

このとき Nicole は 17 歳、Dick は 26 歳であった。Rosemary は Dick の父親らしい包容力に惹かれたが、Nicole は Dick の医師そして年上の男性の持つ包容力に惹かれたのだ。

Nicole が Dick に送っていた手紙の一節を見てみたい。

CAPTAIN DIVER:

[...] Last year or whenever it was in Chicago when I got so I couldn't speak to servants or walk in the street I kept waiting for some one to tell me. It was the duty of some one who understood. The blind must be led. Only no one would tell me everything—they would just tell me half and I was already too muddled to put two and two together. (122)

“It was the duty of some one who understood. The blind must be led” とあるように、この手紙からも Nicole が Dick のことを、“blind” な自分を導いてくれる存在として期待していることが読み取れる。Dick の Nicole への接し方は、医師であると同時に年上の恋人のようでもあり、まだ 16 歳の Nicole が恋愛感情を抱いてしまうのも無理はないといえる。

一方で Dick は Nicole に初めて会ったときに“—I caught up with a nurse and a young girl. I didn't think the girl was a patient; I asked the nurse about tram times and we walked along. The girl was about the prettiest thing I ever saw.”(120)といているように、彼女に惹かれていた。医師として Nicole に接するようになってから、彼の自分への好意を確かめようとする彼女に、“You're a fetching kid, but I couldn't fall in love.”(154)といてあきらめさせようとするものの、彼女に“You won't give me a chance.”(同)、“Give me a chance now.”(同)と迫られると、彼の医師としてのモラルは崩壊し、患者である彼女と恋に落ち、最終的には同僚の反対を押し切って結婚してしまう。そして2人の結婚生活は Nicole が回復して医師としての Dick を必要としなくなり離婚するまで続くのである。

Rosemary との恋と Nicole との恋を比較すると、Dick が若さに惹かれて自制心を失うことで始まり、保護するものとされるものの関係として継続し、その依存関係が終わると関係も終わる、という共通した構図を持っている。

そのような共通点がある一方で、Dick と Nicole の間には2人の子どもがいるという相違点がある。彼は恋人や妻を保護する男あるいは夫としてだけでなく、子どもを保護する父親としても描かれている。そこで、以下では父親としての Dick Diver について考察したい。

Dick の子どもへの愛情

医師として、夫としては道を踏み外した Dick ではあるが、彼は父親としては最後までよい父親であろうとし続けた。子供たちへの愛情の描写は感動的ですからある。

... Lanier came in to watch his father shave—living beside a psychiatric clinic he had developed an extraordinary confidence in and admiration for his father, together with an exaggerated indifference toward most other adults He was a handsome, promising boy and Dick devoted much time to him, in the relationship of a sympathetic but exacting officer and respectful enlisted man. (180-81)

息子の Lanier は Dick のことを尊敬している。このほか、風呂のお湯が汚れていたことについて Diver 家が Mary North と口論になったとき、事態が収まったあとなおも不満の残っている Lanier に“You better forget it—unless you want me to divorce you. Did you know there was a new law in France that you can divorce a child?”(265)といて彼を大笑いさせて一家をひとつにするなど、Dick が父親としての力を発揮する場面がある。

そして、アルコール中毒のため精神科医の仕事を失った自分自身にはもはや多くは残されていないと実感し、子供に希望を託す Dick の姿は、若い Rosemary に執着して醜態をさらす Dick とは対照的ともいえる。離婚後、Dick と子どもたちとの別れが感動的に描かれている。

He was glad he had given so much to the little girl—about the boy he was more uncertain—always he had been uneasy about what he had to give to the ever-climbing, ever-clinging, breast-searching young. But when he said good-by to them, he wanted to lift their beautiful heads off their necks and hold them close for hours. (311)

アルコール中毒と Nicole の精神分裂症に苦しみながらも、Dick の子どもたちへの愛情は最後まで損なわれることはなかった。彼は医師や夫としては道を踏み外してしまったが、子どもたちに対しては最後まで父親として真摯な態度を貫き通したのである。

Tender Is the Night と同様に、短編においても、Fitzgerald の描く父親は、アルコール中毒などに苦しみながらも子どもたちに対しては非常に献身的に描かれている。父親とその子どもたちが描かれている短編には “Baby Party”、“Swimmers”、“Outside the Cabinet Maker’s”、“Lo, the Poor Peacock”などがあげられる。

“Swimmers”では、主人公 Henry Marston と、不倫を働いた彼の妻とその愛人の 3 人が、子どもの親権をめぐって話し合いをすべくモーターボートで沖合いに出るのだが、エンジンが故障し、海岸に帰れなくなってしまう。そこで Marston は彼に親権を渡すことを条件にボートから海岸まで泳いで助けを呼びにいき、無事に子どもたちと暮らせるようになる。Marston には神経科の既往歴があるものの、彼は犠牲者であるのみで、アルコール中毒や不作法、若い娘との浮気といった落ち度はなく、人格の破綻を免れている。⁷

“Babylon Revisited”では、主人公 Charlie Wales は 35 歳、Jacob や Rosemary と出会ったときの Dick と同世代だが、彼らとは違い若さには執着していない。自分自身がすでに若くないとわかっている彼に力を与えているのは年下の恋人ではなく、離れて暮らしている娘の Honolia であり、娘に再会したときに “A great wave of protectiveness went over him.”(619) と感じる彼は娘に対する責任感に満ちている。

Charlie は義理の姉夫婦が預かっている Honolia とふたたび一緒に暮らせるようになることだけを望みとしていたが、それは昔の友人たちの乱入によりかなわなくなってしまう。彼にとって過去の若さは取り返したいものではなく、忌むべきものなのである。他の主人公たちと違い、Charlie は自分には子供しか残されていないということがわかっており、過去の幻影や若い恋人にとらわれてはいない。それらとは決別して新しい人生を踏み出すようとしているのである。

Fitzgerald は “Babylon Revisited” を “the end of his young illusions” と捉えている。⁸ Fitzgerald は若さの幻想が終わることを嘆いていたが、それにとらわれた主人公たちはことごとく破綻し、作品として “Babylon Revisited” をしのぐものはないという事実が、幻想にいつまでもとらわれているべきではなかったことを示しているのではないだろうか。

そして、“Babylon Revisited” の結末部分は以下のとおりである。

He would come back some day; they couldn't make him pay forever. But he wanted his child, and nothing was much good now, beside that fact. He wasn't young any more, with a lot of nice thoughts and dreams to have by himself. He was absolutely sure Helen wouldn't have wanted him to be so alone. (*The Short Stories of F. Scott Fitzgerald*, 633, 下線は引用者による)

Charlie が今は娘と一緒にいることができなくてもその現実に立ち向かっていこうとする意志が感じられる。作品の結末において、Honoluluに活路を見出したことが彼を破滅から救っているといえるだろう。⁹

一方で、こちらは *Tender Is the Night* の結末近く、Dick と子どもたちの別れの場面である。Dick も Nicole との離婚によって子どもたちと別れることになった。

The day before Dick Diver left the Riviera he spent all his time with his children. He was not young any more with a lot of nice thoughts and dreams to have about himself, so he wanted to remember them well. (311, 下線は引用者による)

2つの引用文の下線部を比較すると、ほとんど同じ文章であることが分かる。*Tender is the Night* の子どもとの別れの場面は“Babylon Revisited”からの転用(stripping)なのだ。この転用から、二人の父親の関係の深さが推測でき、Dick が Charlie Walesに通じる父親、つまり子どもと一緒に暮らすことができなくてもそれを乗り越え、人格の破綻を免れる父親になりえた可能性が感じられる。

しかしながら作品の結末部分において Dick は “After that [divorce] he didn't ask for the children to be sent to America”(315)と、子どもたちとの再会を断念する。父親としての希望も絶たれて作品は終わるのである。何が彼と Charlie Wales を分けたのだろうか。なぜ Dick は父親としても破綻することになったのか、その原因を考えてみたい。

父親 Dick を見る Nicole の視線

“The factor that gave purposefulness to the period was the children”(257)とあるように、Dick は最後の心の支えになるものが子どもたちになるであろうことは1929年の夏に Riviera で Rosemary に再会する前から気づいていた。Nicole の病状は悪化しており、彼自身はアルコール中毒に苦しむようになっていたのである。

そのような状況にあった Dick は Rosemary と再会すると彼女を追い求めはしたものの、Rosemary だけでなく子どもたちからも活力を求めていた。“At first he thought nothing. She was young and magnetic, but so was Topsy. He guessed that she had had lovers and had loved them in the last four years. Well, you never knew exactly how much space you occupied in people's lives”(207)とあるように、Dick は自分に活力を与えるものとし

て Rosemary と娘 Topsy を並置している。若い娘を追い求めることは妻子ある男にとって分別のあることではないが、中年を過ぎた父親が自分の子どもたちに活力を見出そうとすることはなんら非難されるべきことではない。先にみたように、“Babylon Revisited”では Charlie Wales の姿は、読者の共感を誘うものとして描かれている。

しかし *Tender Is the Night* において、中年を過ぎた Dick が子どもたちに活力を見出そうとする姿は好意的には描かれていない。父親としての Dick は、しばしば Nicole の視点から軽蔑をこめて描かれているのである。まず、“She guessed that something was developing behind the silence, behind the hard, blue eyes, the almost unnatural interest in the children.”(267) と、Nicole は Dick が子どもたちに向ける関心を“unnatural”と考える。彼女にとっては自分の夫が子どもたちに眼を向けるのはもはや好ましいことではなくなっているのだ。

また、彼女は、Dick が子どもにも執着するのは子どもたちのためではなく彼自身を護ってもらうためだとも考える。

Nicole saw Dick peer about for the children among the confused shapes and shadows of many umbrellas, and as his mind temporarily left her, ceasing to grip her, she looked at him with detachment, and decided that he was seeking his children, not protectively but for protection. (280)

さらに Dick が Rosemary と Topsy を同一視していることに気がついており、そこから活力を得てアクロバットに挑戦する彼を冷やかな目で見る。

She knew, though, that he was somewhat tired, that it was only the closeness of Rosemary's exciting youth that prompted the impending effort—she had seen him draw the same inspiration from the new bodies of her children and she wondered coldly if he would make a spectacle of himself. (282-283)

ここで Nicole は子どもたちのことを“her children”とっており、すでに Dick を夫として、子どもたちの父親として認めていないのが伺える。Rosemary の若さに刺激を受けている Dick を軽蔑するのは妻として当然の心理だが、なぜ父親として子供に活力を見出そうとする彼までも否定的に捉えるのだろうか。

Nicole はかつて父親との肉体関係で傷つき、精神分裂症を発症した。そして親子ほど多年の離れた Dick と Rosemary の近親相姦を想起させるかのような情事でふたたび苦しめられる。そのような経験をした Nicole が、父である Dick が子どもたちに向ける愛情を近親相姦的なものと解釈し、健全な愛情と思えなかったのではないだろうか。

Tender Is the Night は、Book1 の冒頭は Rosemary の視点から始まり、作品の途中で視点が数回切り替わる。作品の終盤、Dick が子どもたちに注ぐ愛情は、彼を軽蔑する Nicole

の視点から語られることが多い。そのため、作品中で Dick の父親としての愛情は健全なものとして描かれることが困難になる。父親の愛情を否定的に捉える人物の視点から語っている点は“*Babylon Revisited*”や“*Swimmers*”などの短編と大きく異なっており、*Tender Is the Night* に特有の父親の描かれ方といえる。

Nicole にとって Dick は、父娘ほど歳の離れた Rosemary の肉体を追い求めるだけでは飽き足らず、幼い娘 Topsy に近親相姦願望を抱く父親と映っており、その姿はかつて幼い自分と肉体関係を持った彼女自身の父親と重なるのである。娘の Topsy について Dick は “What do I care whether Topsy ‘adores’ me or not? I’m not bringing her up to be my wife.”(257) と述べているが、このことがかえって彼が近親相姦願望を自覚していたことのあらわれのようさえも見える。¹⁰ 少なくとも父親との近親相姦と Dick の近親相姦の不倫関係に苦しんだ Nicole が彼の子どもへの愛情をそのように解釈していたことは十分に考えられる。そしてその Nicole の視点からの語りが *Tender Is the Night* において父親としての Dick を好意的に描くことを許さなかったのだ。

Notes

- 1) Matthew J. Bruccoli は以下のように述べている。
When the Fitzgeralds quarreled about his[Fitzgerald’s] interest in Lois, he said that he admired her because she did something with her talents that required work and discipline. Zelda expressed her resentment by burning her clothes in the bathtub. (*Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed*, 256)
- 2) Matthew J. Bruccoli は以下のように述べている。
Passages from the story were later incorporated into *Tender Is the Night*; the girl’s name, Jenny Prince, was an early name for Rosemary Hoyt in the novel draft. (*Some Sort of Epic Grandeur*, 260)
- 3) Sheila Graham は “Someday he[Fitzgerald] hoped to write it[The Final Version of *Tender Is the Night*], for it[*Tender Is the Night*] should have been two books.”(*Beloved Infidel: The Education of a Woman*, 191) と述べており、Fitzgerald が彼女に *Tender Is the Night* の書き直しの意志について語っていたことがわかる。
- 4) *Reader’s Companion to F. Scott Fitzgerald’s Tender Is the Night*, 190-195, Chronology の項を参照。
- 5) Kirk Curnutt は “Age Consciousness and the rise of American Youth Culture” で以下のように述べており、Dick の少女に対する近親相姦的関心を指摘している。
[W]hile Rosemary invigorates his adolescent passions, Dick’s “father complex,” his quasi-incestuous attraction to young girls, allows him to see her only as a child. (*The Cambridge Companion to F. Scott Fitzgerald*, 40)
- 6) Matthew J. Bruccoli は “...those things are rhythmic” について以下のように解説している。
Rosemary is in the fertile period of her menstrual cycle and means to avoid pregnancy. (*Reader’s Companion to F. Scott Fitzgerald’s Tender Is the Night*, 129)
- 7) Robert Roulston は他の作品の主人公たちと “The Swimmers” の Henry Marston の違いを以下のように述べている。
In “The Swimmers,” though, Marston is the innocent victim of his unfaithful wife and her ruthless lover. Throughout he is good, resourceful, industrious, sober, and

- well mannered. (*New Essays on F. Scott Fitzgerald's Neglected Stories*, 158-159)
- 8) Fitzgerald は“Babylon Revisited”について以下のように述べている。
 “You see, I not only announced the birth of my young illusions in ‘This Side of Paradise’ but pretty much the death of them in some of my last *Post* stories like ‘Babylon Revisited.’”(Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed., 455)
- 9) John Kuehl は“Babylon Revisited”の Charlie Wales と Dick Diver や他の作品の主人公たちとの違いを以下のように述べている。
 [W]hereas McChesney[in “Two Wrongs”] perishes and Dick Diver vanishes, Wales recovers, indicating that the other two fictions are less optimistic than “Babylon Revisited.” Why? Because Charlie, who had always worked hard, resumes his professional career in Prague after leaving the sanitarium, no doubt inspired by Honoria. (*F. Scott Fitzgerald: A Study of the Short Fiction*, 84-85)
- 10) David Leverenz は以下のように述べている。
 If Dick worries that he might become like Nicole’s Father, he doesn’t acknowledge it. Instead, he shies away from making Topsy a daddy’s girl, partly by gibing more conversational time to his son, and partly by emphasizing paternal discipline rather than praise. *Paternalism Incorporated: Fables of American Fatherhood, 1865-1940*, 189)

Bibliography

- Brucoli, Matthew J. *Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed.* Columbia: Univ of South Carolina Pr, 2002.
- Brucoli, Matthew J. and Judith S. Baughman. *Reader’s Companion to F. Scott Fitzgerald’s Tender Is the Night.* Columbia: Univ of South Carolina Pr, 1996.
- Bryer, Jackson R ed. *New Essays on F. Scott Fitzgerald’s Neglected Stories.* Univ of Missouri Pr, 1996.
- Fitzgerald, F. Scott. *Tender Is the Night.* New York: Scribner, 1995.
- _____. *The Short Stories of F. Scott Fitzgerald: A New Collection.* Matthew J. Brucoli ed. Scribner, 1989.
- Graham, Sheila and Gerold Frank. *Beloved Infidel: The Education of a Woman.* London: Cassell & Company ltd, 1958.
- Kuehl, John. *F. Scott Fitzgerald: A Study of the Short Fiction.* New York: Twayne Publishers, 1991.
- Leverenz, David. *Paternalism Incorporated: Fables of American Fatherhood, 1865-1940.* Ithaca: Cornell University Press, 2003.
- Prigozy, Ruth ed. *The Cambridge Companion to F. Scott Fitzgerald.* Cambridge: Cambridge Univ Pr, 2001.

本稿は 2008 年 11 月 8 日に学習院大学において開催された 2008 年度学習院大学英文学会における発表原稿に加筆・修正を施したものである。